

総務、産業、建設常任委員会記録

招 集 年 月 日	平成30年4月17日(火)
招 集 の 場 所	議員控室
開 会	午前9時27分
出 席 者	委員長 鈴木 宏通 副委員長 山岸 三男 委員 吉田 眞悦 委員 吉田 二郎 委員 佐野 善弘 委員 櫻井 功紀 委員 千葉 一男 議長 大橋 昭太郎
欠 席 者	
職務のため出席した者の職氏名	議会事務局主事 高橋秀彰
協 議 事 項	・定住化促進について (現状の分析)
そ の 他	
閉 会	午前11時10分

2号様式 協議の経過

<p>鈴木宏通委員長</p>	<p>それでは第5回総務、産業、建設常任委員会を始めたいと思います。</p> <p>4月になりまして連日お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。皆様に先週資料等をお示ししながら本日の会議になりますので、よろしく御審議のほどお願いを申し上げて始めさせていただきます。</p> <p>ただいま出席委員全員参加でございますのでこの委員会は成立しております。それでは会議事項に進めさせていただきます。まず始めに本日の進め方でございますが、皆さんにお諮りいたします。本日先ほど申しました資料等の説明を再度事務局から申し上げて要点を主に説明をいただきたいと考えております。その後そのほかに資料等に関するいろいろな皆様からの課題や問題点をそれぞれお聞きしながら進めてまいりたいと思いますがよろしいでしょうか。（「はい」の声あり）</p> <p>では、初めに事務局より資料の説明を高橋さんのほうからいただきたいと思います。</p>
<p>高橋秀彰主事</p>	<p>それでは事務局のほうから配付した資料の確認等も含めまして簡単な説明をさせていただきたいと思います。</p> <p>まず通知に同封した資料ですが、この配付資料一覧という形で……（「座ったままでいいよ」の声あり）はい、着座にて説明させていただきます。配付資料一覧というものがございますが、それに基づいて説明させていただきます。</p> <p>主にまちづくり推進課から御提供いただきました資料と議会事務局のほうで作成いたしました資料とそして町も含めまして公的機関のほうから発行された資料と大きく3種類ございますが、上のほうから順番に簡単に説明させていただきます。</p> <p>まずお手元にまちづくり推進課のほうから提供いただきました冊子になっている資料を御準備いただきたいと思います。美里町議会総務、産業、建設常任委員会、定住化促進についての資料ということでまちづくり推進課から御提供いただいております。最初にめくっていただきますと定住促進奨励事業ということで、町のほうで行っております定住促進奨励に関する事業ですね。実施計画書にも書かれているものと同じものになりますが、簡単にまとめて記載していただいております。1番として定住促進補助金ということで町内外から居住する目的で新築、購入した家屋の取得者に対して30万円の助成という形で事業を行っているようでございます。続いて2番でございますが、空き家再生補助金ということで改修費用の2分の1以内で上限を100万円として助成をしているような状況でございます。3番目が再生空き家居住補助金ということでこちらのほうも町の事業として行っているものであります。</p> <p>続いてページをめくっていただきますと、今度は空き家対策という部分でまちづくり推進課で行っている事業になります。こちらのほうは要綱を策定しているようございまして、その要綱に基づいて行っている</p>

	<p>という形になっております。</p> <p>続いて次のページになりますが、議会一般質問への回答ということで、こちらはたしか平吹議員が質問した内容に対する回答だったかと思いますが、その回答の基礎となった資料でございます。</p> <p>続いて次のページが定住促進事業実績ということでこちらはまちづくり推進課のほうで提供いただきました事業の実績の部分となりますので御確認いただきたいと思っております。</p> <p>次が町のパンフレットのようなものになっておりますが、定住促進事業のお知らせということで、町のほうで啓発のために配布している資料となっております。</p> <p>間の紙をめくっていただきますと今度はホームページのほうに書かれている美里町定住促進事業のお知らせということになりますが、町の広報を主にパンフレットとこのホームページを活用して行っているようございまして、このページについてはどうも近隣の市町村からリンクが貼られているもので、また宮城県のホームページのほうからもこのページにリンクが貼られているような形となっております、他の地域に住んでいる方に対してこのページを見るような形をとっているようございまして。書かれている内容については最初に見ていただいたページに書かれている内容と同じものございまして、補助金額が30万円、そのほか加算要件がいくつかあるという形になっております。次のページ、2ページ目3ページ目も同じようにホームページに書かれている内容となっております。</p> <p>その次のページについては定住促進の条例ということで、今度は町の例規になります。条例と、次が続いて条例の施行規則という形になっておりますが、このような例規に基づいて事業を行っているというところございまして。</p> <p>続いて例規の次に青い紙を挟みまして、今度は空き家等情報登録制度のほうの周知に関する部分になります。これは町のホームページに掲載されている内容になります。</p> <p>そのホームページの次のページに今度は情報登録制度の実施要綱ということで、これは町でつくっている例規というか、この実施要綱に基づいて空き家の活用に関する事業を行っているという形になっております。</p> <p>続いて、空き家情報登録制度実施要綱の申請用紙等いろいろございまして、その次のページに今度は「全国版空き家・空き地バンク」の使用並びに参画方法等に関する説明会・仙台会場ということで、こちらのほうは説明会に関する次第というか、次のページから国交省のほうで行った説明があったようではありますが、その次第が掲載されております。</p> <p>最後の方に今度はアットホームとライフルのほうでやっている空き家バンクに関する説明会、こちらのページが記載されております。</p> <p>まちづくり推進課から提供いただきました一番最初の資料ですが、こ</p>
--	--

のようになっておりましたが、落丁等はないですね。まずそちらのほうを確認いただきたいと思います。

続いてまちづくり推進課から提供いただきました資料もう一つございまして、人口の推移という2枚の資料になっております。これは住民基本台帳からということですが、広報等の数字を拾ったものとなっております。平成24年の1月から毎月の人口の推移が表の一覧となっております。24年1月からというのは、今行っております定住促進事業の前身の住宅取得支援金が24年の1月以降に行われていた事業ということでございまして、それ以降の事業の成果というか効果をはかるためにこのような資料をもともと作成していたというところでございます。こちらは住民基本台帳からの数字となっております。

続いて議会事務局が作成した資料に移らせていただきます。最初に説明の都合上ではありますが、公的機関から発行されたこの「住民基本台帳に基づく宮城県の人口移動調査年報」というものをお手元に御準備いただきたいと思います。こちら最初にめくっていただきますと「利用に当たって」というページがあるかと思いますが、その2番の(2)ですね、利用上の注意の(2)推計人口と住民基本台帳に基づく人口の相違というところを見ていただきたいと思います。委員さん皆さん御存じの方多いと思いますが、一応確認のために触れさせていただきたいと思いますが、公的機関から出される人口に関する資料は大きく国勢調査を基にしている人口と住民基本台帳を基にしている人口というふうに2つありまして、住基を基にしているかあるいは住民票上の登録がなかったとしても実際にその地域に住んでいるかという国勢調査の部分の基にしている人口かというところで若干意味合いが変わってくるという部分がありますが、今回配付している資料、まちづくり推進課提供と議会事務局で作成した資料に関してはすべて住民基本台帳を基にしている資料というところで認識いただきたいと思います。ですので、今回(抄)のような形で美里町人口ビジョンの抄本というか抜粋した資料を付けさせてもらっておりますが、人口ビジョンのほうで触れている人口というのは基本的に国勢調査をベースにしておりますので、ある年度のある時点での人口がもしかしたら違っている場合もあるかと思いますが、私のほうでつくって今回提供した資料の大半が住基を基にしている人口だということでこの相違点についてまず最初に認識いただきたいと思います。

資料戻っていただきまして、議会事務局作成したものですが、全部で5枚ありますが、1枚目が第1表ということで市区町村別男女別人口、人口増減数、自然増減数及び社会増減数というところで、上のほうで日本人のみ、下のほうで日本人プラス外国人という形で並べて掲載しておりますが、こちらは宮城県の統計課のホームページに記載されております住民基本台帳人口及び世帯数の年報から抜粋した資料になります。自然増減、社会増減のうち自然増減を中心に出生者数、死亡者数等が暦年

で並んでおりますので人口の推移の参考にさせていただきたいと思います。

続いて2枚目ですが、第2表市区町村別の社会動態になりますが、これも基にした資料は同じ資料になりますが、今度は社会動態ということで県内県外の転入転出の内訳を年ごとに並べたものになっております。こちら基準日ですが12月31日ということで御承知いただきたいと思います。

続いて3枚目ですが、住民基本台帳年報の年齢5歳階級別人口というところでこちらは資料の出典は市町村課のホームページですね、「宮城県の住民基本台帳年報」から抜粋した資料であります。これも25年までは3月31日、26年以降は1月1日を基準日とした人口になっております。こちらのほう5歳単位での人口が一覧になっておりますので、推移等を年齢別に見ていただきたいと思って今回つくらせていただきました。

続いて4枚目ですが、これは行政区別の人口の一覧になります。4月1日を基準日といたしまして25年以降6年分並べて掲載しております。途中で駅東行政区が1区と2区に分かれた関係でこのような形で掲載させていただいております。

次のページが同じ行政区別人口一覧表ではあるんですが、今度はA3の用紙になっておりまして、これは3カ月刻みで行政区の人口推移を並べさせていただきました。

以上、議会事務局のほうで作成した資料になります。まちづくり推進課のほうから提供いただきました資料について疑問点があった際には、もちろん事務局を通していただいて結構ですが、まちづくり推進課に確認したいと思いますし、議会事務局で作成した資料につきましてもし何か疑問点ありましたら私のほうに言っていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

最後にその他公的機関発行資料であります、3種類ですね、人口ビジョンと国勢調査の宮城県の集計結果と最初に見ていただきました29年の人口移動調査年報ですね。その3種類付けさせていただいております。

まず最初の人口ビジョンであります、こちらは28年3月に既に委員の皆さんに配付された資料であるかと思っておりますので、今回抜粋した形で付けさせていただきました。こちら、めくって最初のページですね、もともとの資料ですと32ページになるんですが、美里町の将来推計人口ということで、将来このような形で推移していくだろうということで今町でやっております人口政策の一つの目安になる数字かなと思って付けさせていただいております。こちら先ほど触れたとおり国勢調査を基礎とした数字となっておりますので、住基を基礎とした数字とは若干異なっておりますので、その点はよろしくお願いいたします。33ページでは町の推計、現状維持した場合の推移、そして目標となる数字

	<p>と言いますか、出生率を向上させて、社会増減をなしというところで見込んだ数字が記載されております。34 ページは6 番の「今後の課題、展望及び方向性」ということで、これからの町の人口減少に対する対策の大きな部分が書かれているものと思いますので、参考にさせていただきたいと思います。人口ビジョンに関しては以上です。</p> <p>次の資料ですが、国勢調査のほうに移っていただきたいと思います。平成 27 年国勢調査、移動人口の男女・年齢等集計結果、宮城県の集計結果でございます。国勢調査なので住基を基礎とした資料とは若干数字の意味合いが違ってくるものではありませんが、国勢調査が一番多角的な分析が可能なものというか、データが細かく書かれているものでありますので、若干住基の部分で捉えられないような数字がいくつか載っておりますので、参考にさせていただきたいと思って今回配付させていただきました。特に興味深いと個人的に思ったものであります。7 ページをお開きいただきたいと思います。現住居における居住期間というものであります。22 年、27 年というふうに5 年の期間であります。並んでいるものであります。美里町ですと表の下から3 番目のところになります。居住期間が1 年未満とか1 年以上5 年未満とかあるいは20 年以上というふうにその基準日での居住期間が分かるようになっておりますので、このあたりも参考になる数字かなと思って今回付けさせていただきました。国勢調査に関しては本当に詳細な数字が分かるというところで、1 年単位の推移という形ではなく、あくまでも基準日での現状という形になるかと思いますが、言っていただきましたらある程度詳細な数字が出せるかと思っております。もしこういう数字がほしいという部分がありましたら事務局のほうに申し付けさせていただきたいと思います。この資料に関しては以上になります。</p> <p>最後になりますが、最初に戻っていただきまして、平成 29 年のこの年報になりますが、宮城県の統計課で出しております29 年の移動調査の年報になっております。自然動態、社会動態等県内の各市町村あるいは各区ですね、各市区町村の数字が一覧となっておりますので、他市町村の動向を把握する際の参考にさせていただきたいと思います。この中に第1 表、第2 表、第3 表とありますが、今回事務局で作成した第1 表、第2 表という社会動態と自然動態の数字に関してはこの第1 表と第2 表の美里町の部分を年ごとに抜粋したのになります。</p> <p>説明資料に関しては以上となりますので、よろしく願いいたします。</p>
鈴木宏通委員長	<p>ありがとうございました。かなりのページ数を今簡単に説明いただきました。皆様には一通りお目通しを願って本日の会議ということで今後進めたいと思いますが、まず、まちづくり推進課の資料につきましては先ほど来説明があったとおりいろんな部分の取り組みにつきまして、定住化促進の奨励事業としましての事業、そしてもちろんその中の空き家対策につきましての推進課の取り組みの事業。そしてその中で一番は定</p>

	<p>住化促進に向けた部分での 27 年度からの取り組みの補助金交付金額と申請件数である程度の件数が伸びていますし、住宅関係から見ますと駅東の住宅、北浦駅周辺の住宅の伸び、世帯数が伸びているのが大まかに言えば出ているのかなということが推測されます。その中で皆様にはこの委員会におきまして現状分析ということでございますが、大体同じ認識に立つのかなということで理解をしてよろしいですか。いかがですか。もし、この場で「いや、こういう分析はどうなんだろう」という話をしていただければそれでも構いませんけれども。委員によるいろいろなお話を進めさせていただきたいとは思いますが。</p> <p>副委員長どうですか。</p>
山岸三男副委員長	<p>詳しい資料を用意してもらったんでね。ただこれを全体で今委員長が言ったように何かと言われてもなかなか意見が出てこないと思うのね。現状分析ということである程度一つずつやっていかないと、全体で一週にわっと言われても進まないと思うんでね。まず議会事務局で……いただいた市町村別概要人口とかね。あとは一人ずつ何か意見なりあるいは感想なり……。</p>
鈴木宏通委員長	<p>もちろん個別に案件は皆さん各委員からいただき、総体的に、例えば人口世帯数の一つの部分ということと、あと今施策で町の取り組みのことと大きくまず 2 つに分かれますし、人口世帯数の調査もさまざまな統計、住基によるもの、いろんな部分の統計によるものを出していただきましたし、それぞれ皆さんの感じる部分はあるかと思いますが。人口推移の部分はたぶん皆さん、町に関してはね、駅東に関する増える部分と、例えば人口は減少、微減しているものの世帯数は伸びているというところは大きく皆さん認識していただけるのではないかなと。あと社会動態に関しての町の流出流入に関しての、県のほうの……わかりますけども、うちの町に来ていただける近隣の大崎市さんや涌谷町さん、うちのほうも仙台市とかいろいろ出ていく部分も多いですけどね。やはり一番最初に人口世帯数につきまして皆さんに……ということもないですけど（「感想でもね」の声あり）感じることなり見ていただいてどのようなお感じ、今までやってきたことも含めましてね感じることを……していただきたいと思えますけど。</p> <p>吉田委員。</p>
吉田眞悦委員	<p>人口の関係で行政区ごとのやつを全部見てみたんだけど、町全体としては例えば 30 年の 4 月 1 日と 25 年の 4 月 1 日を比較して、5 年間の差ということなんだけども、615 人減っているわけだ。町全体としてはね。ただ、行政区単位で見ると、ほとんどね……。ただ、……地域だと駅東の、当然皆さんも認識は同じなんだけど、駅東の効果は絶大なものが。震災以降ね。その効果があって、小牛田地域の場合は減少がうんとこう薄まっているわけさね。それで、小牛田地域だけのことで言うとマイナス 61 人で済んでいるわけさ。5 年間で。駅東に今 1692 人、4 月 1 日現在で登録になっている方がそれくらいいるということなんだ</p>

	<p>けども。ただ、ちょっと私わからない部分なんだけども、小牛田地域で御免と起谷、彫堂、駒米、笹館、的場柳原のそこだけが人口、若干だけどね、5年前と比べると増えているわけさ。あと南郷地区だと福ヶ袋と練牛と中二郷、その3カ所だけが増えているという、その地域の借家というか、南郷は借家がほとんどないんだよね、特に小牛田地域だと思うんだけど、そういう関係なのかなと思ったりもしているんだけども。そういう地域の特性というかな、小牛田地域でもかなり町場的なところから本当に.....的のところまで当然あるんだけども。だからそういう関係がどうなのかなと個人的に思ったことが1つと。あとやはり60歳以上の人口から見ると5年前は38.77%だったのが、30年からすると41.72%で約3%くらい増えているわけだね。着実に高齢化しているということは事実なんでしょうけども、そういったところが着眼なのかなと思ったりしました。</p> <p>それともう1つが、5歳刻みの階級別のを見るとやはり我が町は、我が町だけではないんでしょうけども、0歳から19歳までが、これは平成18年からの統計になってくるんだけども、686人減っているんですよね。要するに学校、大学あたりまでということになるんでしょうけども。そして20代が1,129人ももう減っているわけさ。18年と比較すると。だからこれだっているのは当然就職の関係もあるわけけども、やはり大学とかそういった学校との絡みが今の世波からすればそういうような状況になっているのかなと。こっちから学校とか職場に通うということではなくて、もう別なところに移り住んでというのが主体になってくるのかなと。そういうところの確認はすべきだろうなというふうにも思いました。</p>
鈴木宏通委員長	<p>今の地域ごとの特性も含めて、あと5歳ごとの住民基本台帳による年齢構成の部分も含めまして、いろいろ今御指摘をいただきました。</p>
吉田眞悦委員	<p>そういう現実には現実だけれども、それらの要因というのもしきちと確認しておかないと駄目でないのかなというような思いで言ったんだけども。</p>
千葉一男委員	<p>感想というレベルでしか私はないんですけど、基本的には我々が感じていることとデータとはほとんど差がないと。現実だね。ただそれをどう認識するかということにまず.....と。今の時代は他の町よりも私たちがの方が負けないう競争状態がまずある。しかし、将来競争状態はなくなっていくだろうと。そういう自治体間のお互いに協力しながらやろうとなるみたいに私は向かっていくだろうなと感じています。それから、この間の新聞の記事の中にはもう宮城県の中でも富谷以外が全部マイナスということでしたね。この間私は他のところでも情報収集のために行ってきた、学生たちの話を聞いてもほとんど同じように私は受けとめています。そういうところで傾向は見えるけども、やっぱり良いとか悪いじゃなくてコンパクトシティという概念が必要になってくるんだろうなと今は感じています。したがって、さっき各行政区</p>

	<p>別の現状……、当然と言えば当然のような結果なんですよ。だからこういう事実をどう感じながら、受け止めながら我々のこれからの施策の中に生かすか。例えば総合計画と戦略の中の定住化という項目があるんですよ。こういうのを見ると難しさがよくわかるんですよ。だから今後……手の付けようがないというのが本音のところの私の感想です。これは。私個人的なね。だからその実態を感じながら財政との絡みで何をやらなくちゃならないか。それで端的に効果を求めるのであれば、自然増を求めるのはなかなか難しい。したがって、社会増、流入をやりたい。しかし、流入も難しいので、流出をとりあえずは減らしていかななくちゃいけない。流出を減らすにはそこで生活できるという環境をいかに構築していくかということがね。特に労働人口が少なくなりますので、そういうところがポイントかなと感じてこのデータを読ませてもらいました。あとは皆さんの意見を聞きながら、我々のような老人ではなくて新鮮な感覚を聞きながら、皆さんに教えてもらってやっていきたいと思います。</p>
鈴木宏通委員長	<p>それでは皆さん全員に聞きたいと思いますので、佐野委員お願いしたいと思います。</p>
佐野善弘委員	<p>この資料を見させていただいて、今お二方がおっしゃるとおりですけども、自然増減は出生があまりふえなくて死亡がふえて、大体年間 131 人から多いときで 237 人くらい減っていると。社会増減については転入が 742 人から 923 人、転出が 705 人から 18 年ですかね、937 人。その他にマイナスの 65 人からプラスの 219 人ということで、この社会増減については特に平成 24 年からマイナスからプラスになってきたというようなことで、東日本大震災の関係でだいぶこう、特に駅東だと思うんですけどその辺でふえていますけども、大体これも落ち着いてきたのかなと。平成 29 年で言いますと社会増減もマイナス 63 人ということになりますので、その中で社会増減の内容もいかに工夫して人を増やすか。</p> <p>あとは自然増減の中で出生が低いというのは、一番の原因になると思うんですけどやはり結婚しない方が……多いですのでその辺の対策も一つだと思うんですけど。なかなかその辺がならないと出生にはならないと思いますんで、いろいろ支援とかやっていると思うんですけど、出会いの場とかですね、なかなかその辺……。そういう出会いの場というのはだいぶ前はいろいろな地域に世話人の方がいてだいぶお世話をした方が……。なかなかその辺が今個人情報とかいろいろこう情報交換ができないというのはそういういろいろな原因があると思うんですけど、そういうことで結婚しない方が少なくない。その辺の対策もしているいろいろな方面から人口の問題をもう少し研究していったほうがいいんじゃないかなということでこの資料を見ています。以上でございます。</p>
吉田二郎委員	<p>……市長さんが新聞に若者の定着促進をしていきたいというような……載ってたいんだけど、我が町でもいろいろとそういうふうに支援策をとっているんだけど、特筆した金額ではなくて大体どこの自治体</p>

	<p>でも移住するたびに住宅手当とか定住させるための施策をとっているんだけど。そうじゃなくて、本当にあれだったのがこれだけは我が町もとにかく若者が先に魅力のある町にもっていくようなつくりをしていかないと駄目なんではないかなと思っているんですよ。医療機関も発達していったってどんどん長寿と言うか、健康……長生きの施策はできるんですけども。私もこういうつくりになっているということは考えられなかったんです。これは20年前あたりからもちろんわかっていたとは思いますが、いかんせん本町においても毎年減少で、これは駅東がなかったらえらい騒ぎが出てくるんじゃないかと思っていたんですけども。駅東の1、2区で若干その目減りというか人口下落をカバーしているからまだいいかなとは思っているんですけども。</p> <p>とにかく方向をなんとしても若者が魅力のあるまちづくり、そのほうに向かっていけば収まってくるかなと思っているんですけど。</p>
鈴木宏通委員長	<p>はい。ありがとうございました。 それでは続きまして櫻井委員お願いします。</p>
櫻井功紀委員	<p>皆さんがざっくり話したのとまず認識は同じです。委員長言ったとおり、世帯数はふえているけども人口は670人減っています。24年からだけど1年必ず減っているんだな。世帯は逆に90なんぼずつ多くなっているでしょ。今皆さんがざくばらんに、ざっくりは吉田委員が言ったとおりだと思うんです。ただ……、吉田眞悦委員が言ったとおりね、同じようなことをやっているんだな、どこの町でも。やっぱり美里町はこれだっていう目玉がないとな、定住の促進。例えば、由利本荘市とか、七ヶ宿町ではやっているんだな。</p> <p>皆さんこの間新聞記事読んだ、七ヶ宿の。促進住宅ということでないか。貸すんだもんね。……引き渡し式があったんだけど、20年間住んだらその土地と建物がもらえるんだとさ。それから由利本荘でも……。</p> <p>だから、まあ皆さんとお話した認識は同じですね。ただ、これから何をやるかというのが課題だと思いますよ。以上です。</p>
鈴木宏通委員長	<p>はい。山岸委員お願いします。</p>
山岸三男副委員長	<p>この資料から私が感じたことはまずこの数年来で美里町は今皆さんがおっしゃったように世帯数は若干ふえているんですよ。と同時にここ2年くらいは人口も2万4,700人台をキープしている。私は現状で考えたときにはこの人口の2万4,700人台を維持する、減らさないようなことと、世帯数がふえているというのは転入者よりも町内に住む方が要するに親から独立して家を建てるといふ。若干転入者もいるんでしょうけど、もちろんあるんでしょうけど。そういうふうに私は今感じているんですね。</p> <p>同時に、皆さんすぐ、私もそう思っているんだけど、地元の雇用、地元で働ける場所が必要だと思うんだけど、私もここ何十年も議員をやっていて「誘致企業、誘致企業」と言い続けてはきたものの現実的にはほとんどないに等しい。たまたま震災の関係で木の屋さんとかね、石巻、</p>

	<p>気仙沼から来てくれたけども、それ以外の企業というのはここ何年も町として努力しているんだけど、ほとんど来ません。原因はわかっているんです。土地が高くて。と同時に、造成した工業団地とかはそういうのは本町にはない。そういう施策をやってこなかったのもはっきり言って人口あるいは定住……働く場所がないっていうのはわかっているんです。そういう施策をやってこなかったことに原因はある。土地が高くてとてもできないというそういういわゆる政策です。町の政策によって町の発展とか推移はだんだん見えてきますからね。</p> <p>それで、私が今この数字、データを見たときに感じたのは、必ずしも美里町に工場を今から誘致しようと言ったってそう簡単にできる話ではないんであれば、美里町はベッドタウンあるいは美里町から近隣町村に仕事に行ってもらおう。そういうことで私は構わないんじゃないか。その中で、では美里町としてどういう施策を打ち上げて定住化あるいは転入者をふやす。人口をふやす。その施策をどういうふうに進めていくかという……、もちろん町でも施策として定住化促進補助金を出したりいろんな施策をやっています。これは近隣町村皆同じことをやっている。いつまでも同じことをやっても、やっぱりそこで若い人たちが今いるんな施策だったりインターネットですぐ調べて町にはどういう補助制度があるのかとかどういう保育所がすぐ入れるのかとかそういうことを簡単に調べるんですね。そうすると一番有利で補助金が多いところとか、それだけで来るわけじゃないとは思いますが、そういう施策に関してのもっと内容を充実するとかあるいは町の施策の転換とかそのことまで踏まえて考えていかなないとなかなかこれからの定住者を維持するということは……。</p> <p>人口が減っていることは数値的にこのデータにもあるように30年後には1万6千人と数字まで出ているんですね。1万6千人の人口でどうするんだって想像つかないんだけど、いやがおうにも議会の状態もどんどん変わっていくと思うのね。ちょっとまとまりがない話になってしまったけど。とにかく現状で考えて現状でできること。最低限度もう維持すること。そのくらいに考えていかなないとどうかなって。あまり前向きではないかもしれないけど、私は現実的にはそういう考えをしていかなないとなかなか人口維持……増加させるというのは非常に難しいなと現実的には思っています。以上です。</p>
鈴木宏通委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>では、私の話をさせていただいて。もちろん皆さんと同じ認識で人口減少、各集落の人口増減に関してのうちの町の特徴というのは皆さん話したとおりであります。とにかく今駅東のおかげをもって世帯数の増加が主にあるのかなと思ってますし、町の例えば施策、たまたま災害よっての沿岸部からの流入等もあるかと思えます。市町村別の転出先とか転入というこのデータがありますが、大崎市に移動する方、美里町結構多いんですね。もちろん大崎市から来る方も多いです。その次に多いの</p>

が仙台市。まあ移動等もあるでしょうが、そういうことも踏まえますと、美里町は仙台市からの流入というのもある程度考えられる場所なのかなというところ。あともちろん大崎市という県北の市町村の中での住宅都市というところでこちらに出入りもあるかもしれませんが、町としては交通の要所でもあり、住みやすい場所でもあるのかなということがわかるかなと思いました。

あととにかく駅東に移動する方々の世帯別年代を見ると、30代から45歳くらいの方の流入が多いので、世帯数がふえ、人口が……、あるいは子育て世帯の方々が来ていただいたので、不動堂小学校等の子供たちの増加にもつながっているのかなと。実際現状としては駅東は約いっばいになっていますので、今後どのような形でこの施策を続けながらほかの地域にリンクさせていければいいのかなという部分がありますし。

あと私が思ったのは、とにかく先ほど来20代以下の人たちが減少している。20代から60代の労働生産人口の……30代から45は多少今データから言うとふえています。そういうことを踏まえてそしてもちろん60歳、65歳以上の方々が年々増加する傾向にもあります。そしてこの世代を仮に3つに区切ったら、私としてはですよ、例えば60歳以上の方々の、前から言われていますが、ふるさとに戻って来られる方々、Uターンまたは地方に住んでみたい方々をいろいろこちらに誘致する方向もあるのかなと。あと労働世帯の方々にはやはり通勤できる一番の場所としてのメリットを生かしながら子育て世帯、うちの町で一番子育てがしやすいですよというようなアピールも含めて学校やまたはそういう住環境。駅東に限って言えば商圏的にやはり車がないとお店になかなかいけないというのがありますけども、……ところの商圏的な部分もあるかなと。

あとはやはり先ほど佐野さんが言いましたが、0歳から20歳までの、とにかく今……世代が多いですし、奥さんを守っていただいて、これも子育てにつながるのかもしれませんが、いろいろその部分もどうかしてクリアしていただきたいなと思っています。

その中でうちの所管する部分でどのようないろんな提言ができるのかなと、先ほど来なんか私子育てとか福祉とかそっちのほうに行き加減なんですけど、ならばうちのほうの所管する部分で考える部分で住環境の整備や、例えば道路交通網、商工業の発達等も含めまして、あと例えばこちらに帰ってくる方々のためにも例えば農作業のなんていったらいいんだろう……（「体験か」の声あり）いろいろ体験じゃなくてもうしていただく……。本当は5反歩以上ないと田んぼ……いろいろするんですけども、そういうようなものを緩やかにしていただきながら畑作業もそうですし、ならばそれを基に今度ビジネス的に展開できないかなということも踏まえて、今までもずっと考えてきたことはいっばいありますけども、いろいろそういうことも施策につなげられないかなと思ってデータを見ました。

	<p>以上私の感想をこれで終わりにさせていただいて、あと先ほど皆さんからいただいた中での地域別の、先ほど吉田眞悦委員の要因ということを認識するために地域別の、駅東というのは……、そのほかの地域の部分の住環境またはさまざまな部分で増えている部分というのはやはり……的なのところもありますし、どのように解釈しながらどう進めたのか、地域によって進めている部分もあるのか、民間の会社による住宅供給開発なのか、さまざまあるかとは思いますが。その辺の認識もいろいろ含めまして考えなくてはいけないのかと思いました。</p> <p>一応皆様からの今のお話をいただいた中で人口世帯数に限ってよく出ましたけども、まちづくり推進課で行っている……24年度ですか、住宅取得制度を含めて震災以降町としていろいろふえている部分もありますし、町の施策に関しての部分で住宅促進に関する部分の資料から皆様に読み取っていただくところで、……または疑問点等をお話しをいただければいいのかなと思いましたが……。</p> <p>(「委員長いいですか」の声あり) はい、副委員長。</p>
山岸三男副委員長	<p>今、定住促進奨励事業で……町で、この資料はないですよ。何件… …あるのかな(「あるよ」「平吹さんの一般質問……」「平吹さんのに出てるよ」の声あり) はい、すいません。</p>
鈴木宏通委員長	<p>居住地別で見ても……。</p>
山岸三男副委員長	<p>3,910万。申請89。ふえていることはふえているね。大崎と仙台ももちろんふえているんだな。</p>
鈴木宏通委員長	<p>前回の定住化促進の事業の実績はもちろん皆さんのお手元のとおりですし、今後駅東の部分はある程度鈍化する傾向にはあるだろうと思えますし、その地域も含めて事業的なのは今後どう推移するかわかりませんが、一応この3年間では、29年度までは伸びを継続はしていますが今年度どのような推移になるかというのは、当初予算の計画の中にもありますけど、実際この推移を見ながら皆さんにひも解くところをいろいろしていただきながら。</p> <p>それと今回の資料を基にいろいろ皆さんに見ていただきましたけれども、私が勝手に考えていましたが、実際この部分で皆さんで疑問やこういう部分がわからないというところもあるかと思えます。後日、その部分でいろいろわからない点を担当課の方に説明等質疑をぶつけていただきたいなというのも考えていましたけれども、今回何も無いところからの話ですので、皆さんの本当に御忌憚のないお話をいろいろいただきながら進めてまいりたいと思えますので。町としての今の取り組みは十二分に発揮しているのかなと私は思うんですけども。個人的には。ただ、これからの取り組みとしてどのようにやるべきなのかとかこうだったのかというところを皆さんにいろいろ認識していただくために今回資料をいろいろ渡しましたけども。あとは結果が今の人口の推移なので。世帯数の増加と。</p> <p>それではちょっと休憩をします。</p>

	<p>休憩 午前10時20分 再開 午前10時55分</p>
鈴木宏通委員長	<p>では、再開をしまして一応今回の総合的なまとめになりますけども。今回皆様にまちづくりのほうの資料、そして人口、世帯数等の調査結果を含めた資料等を渡しまして、御忌憚のない発言を休憩中ですけどもいただきながら進めてまいりました。今回の皆さんの認識とともに同じ認識なのかなということを含めまして、ここで櫻井委員より情報提供がありました七ヶ宿町の住宅促進または由利本荘市の取り組み支援等の資料等もいただきましたし、今後ともいろいろ資料等の収集及び情報収集に努めてまいりたいかなとは思っていますし、本来私たちの町でこれから行うべきものというよりは実際今現状がどのようにあるかというのをもう少し探究をしていきたいと思いますが、その方向でよろしいでしょうか。（「はい」の声あり）</p> <p>次回も含めまして先ほど来、加美町や色麻、あとは登米市等の近隣の町村の取り組み等も含めまして情報を収集したいなと思っております。</p> <p>そして最初にお話ししましたが今回まちづくり推進課にいただいた資料等に関しまして、もし皆さんの各委員からの要望がありましたならば担当課担当のいろいろな詳細説明をいただくこともありかなとは思って今回考えていましたけども。その分に関しての一応要請等を先に申し上げなくてはいけないと思いますので、向こうの日程調整を含めて、その点に関しても皆さんのお話で進めたいと思いますが、この点に関してはいかがいたしますか。次回に向けて担当課への質疑等を含めて進めていいか、その次でいいかということもありますが。まだ、時期尚早ということで……。はい、吉田委員。</p>
吉田眞悦委員	<p>今の委員長の話からすると他市町の取り組みの関係ということでそれらも含めて先にして、そして担当課との話し合いというか、質疑というとあれだからだね。町は町でも分析しているはずだと思っていますから。町の分析、考え方。それに対しての今後の展望をどう考えているんだということまで含めれば次の次でいいんでないかなと。</p> <p>ただ、あとは一つ例年どおりの、あくまで例年どおりの取り組みからすると、所管事務調査の兼ね合いも当然出てきてそれも考えないといけないことだから、結局その前までに町とのやり取り、やり取りというか話し合いの場をまず設けておかないとその後の委員会としての今後にもね……出てくると思うのさ。ただ、もう1回だけはいろんな情報収集というか、それらを踏まえて次のときに話し合いを。あくまで話し合い……だからさ。それを踏まえて所管事務の関係のほうにもっていったほうがいいんでないかなというふうに思います。</p>
鈴木宏通委員長	<p>ありがとうございます。 はい、佐野委員。</p>
佐野善弘委員	<p>きょう資料を見たところ、定住促進事業の中で思ったより……ということですよ。多いんじゃないかなと私なりに感じるんですけど。この</p>

	<p>内容というのは果たして効果が現状出ているのかどうかとその辺の検証も必要ではないかと思っているんですけどね。実際私は効果あるのかなと思っていて、実際その辺の状況どうなのか。29年は278人ほどこれの関係で応募になっていますから、900何人のうち200何人ですよ、あそこ……。ですからその辺を現状の施策の検証というのもですね、他の事例の検証もいいんですけど、その辺の内容も検証しながら、その次に町とのその辺を考え方もあると思うんですけども。その辺を調査したほうがいいんじゃないかなと思っています。</p>
鈴木宏通委員長	<p>分析としては、まちづくりで例えばいろんな助成、補助した方々にアンケートって取ってんのかな。どうだかって……。私もそこまで把握はしていないんですが、例えばそういうところの分析という御意見なんでしょうから。</p>
佐野善弘委員	<p>件数的にほら……（「個人的ではなくてということですか」の声あり）29年がまあそうですね全体的に……。個人的なやつというのはそういう積み重ねの結果になっていると思うんですけど。そういうところも調べて、どこがこう魅力があるか。金額だけではないと思うんですけどね。</p>
吉田眞悦委員	<p>どこまで把握しているかね。</p>
櫻井功紀委員	<p>今の関連なんだけどもね、もらった資料の実績あるでしょう。2ページ目かな。定住促進年代別申請にね。これ70代取得者が奥州市と2世帯しかないよね。それから80代取得者が大崎市から。70代取得者が気仙沼と石巻から来ている。この辺がね、次回のときにどういう要因でここに来たのかということも把握してるんじゃないかな。</p>
鈴木宏通委員長	<p>確認しないと私もちょっとわからないですけど。まあ聞いてみますけども。</p> <p>佐野委員が言ったところの現状の把握をもう少しより進めたいということと、先ほどの吉田眞悦委員のお話のこの部分も含めまして、そういうところの分析も。（「もう1回分析してね」の声あり）もし、そのときに、次回まではなかなかどのようになるのかわかりませんが、あとは一応先ほども言ったとおり、次の次あたりに担当課と話をするそのときにもしわからなければそのときに出していただければと思います。一応担当課には話はしてみます。今佐野委員が言ったことももちろん大切なことですので、先ほどの吉田眞悦委員の情報収集も含め地元の定住化の現状ももちろん再認識していただくためにもう少し情報分析をするということになります。あと他市町に関してはまた、私とか事務局でいろいろ情報を取りたいと思いますし、その情報をどのように……。また郵送……。</p>
吉田眞悦委員	<p>所管事務の関係もあるから、他市町の部分の情報を県内だけでなくさ……。出たほうがいいですか（「出したほうがいいですか」の声あり）参考になるというところがあれば。お互いに調べてくるけどさ。</p>
鈴木宏通委員長	<p>他の委員ももし参考事例があれば……。新聞なんかにも結構出てる（「新聞なんかにも結構出てる」の声あり）もしあれば、いろいろ教えていただいて、かえって情報提供</p>

	<p>していただきたいと思いますので、よろしく願いをしておきます。</p> <p>今回一応その方向で進めてまいります。次回となりますが、次回の委員会の開催……。</p>
吉田眞悦委員	その情報収集にどれくらいかかるのか……。
櫻井功紀委員	連休明け。来週。
鈴木宏通委員長	来週ですか。来週はちょっと厳しいかな。
櫻井功紀委員	やっぱり連休明けだろうな。5月だな。5月の第2週だな。
吉田眞悦委員	<p>高橋君どうなんだ。例えば2週間くらいか。(「出すっていうだけでしたら2週間くらいでもいいような……。ただ、他市町のデータを担当課のほうで詳細につかんでいる部分があるかと思うので、担当課との調整が時間がかかるということになれば2週間では厳しいっていうことに……。事務局でインターネットで調べられる部分であれば……」の声あり)</p>
佐野善弘委員	5月会議あるんですよね。18日。
鈴木宏通委員長	5月ね。5月18日だよ。
大橋昭太郎議長	そのとき特別委員会が午後から。(「何日」の声あり)
山岸三男副委員長	18日。5月会議が終わってから特別委員会1時半から。
鈴木宏通委員長	もしよければ、9日か10日。ちょっと遅らせてもらえば私も……。
櫻井功紀委員	千葉さん何か用あるの、9日。
千葉一男委員	うん。あるの。
山岸三男副委員長	5月10日。
鈴木宏通委員長	よろしいですか。(「はい」の声あり)農家は厳しいですけど、それはそれで。
櫻井功紀委員	佐野さん大丈夫か。佐野さん。
吉田眞悦委員	なかなか「うん」とは言わないみたいだ。俺はいいの。
鈴木宏通委員長	5月10日、9時半で。ではそうすると連休前に皆さん情報というか資料を。
吉田眞悦委員	このように前もって渡してある程度目通ししてもらったほうがいいんでないの。
鈴木宏通委員長	では、今月中に頑張る。またよろしく願います。
大橋昭太郎議長	<p>この間新聞で読んだんだけど、涌谷が定住化の問題の中で町内から町内に家を建てたのに対して助成金を出してるんだっけな。(「町内から町内」の声あり)例えば町内から転出しないように、町内の人町内に家を建てたときに30万だか助成がね。(「おらほうもだ」の声あり)おらほうも同じ。そういった方向性のとこっていうのも大変貴重なのかなって感じがしています。(「涌谷もね」「涌谷をでは調べてみます」の声あり)まあ考え方なんだけどね。</p>
吉田眞悦委員	町内は町内のもオーケーなんだけども、建て替えてそこにあって新しく建て替えるのは駄目だよってことだね。

大橋昭太郎議長	別な場所にとってことだね。
鈴木宏通委員長	ではまた事務局、高橋さんいいですか。(「はい」の声あり)今月中に皆さんに一応出していただいて。頑張りますので。(「どうですか。今の時点で結構な資料もあるんですが」の声あり)あるんだよ。そいつコピーしてもらって。実際つくってもらったのよ。日本のやつというか所管事務調査も含めたね。どういう場所がいいかなと思って見ていただくための資料はつくったの。(「このレベルのやつを自宅に送ってもいいかという……。ある程度抜粋して……」の声あり)
山岸三男副委員長	抜粋って、そいつ全部だと大変……。
千葉一男委員	やっぱり全国のやつそれぐらい当然あるんだ。
吉田眞悦委員	あるの。あるの。
鈴木宏通委員長	資料これからふえてくよ。
大橋昭太郎議長	町ごとにあるんでないか。
鈴木宏通委員長	そのとおりです。
千葉一男委員	それはメニュー程度なの。
高橋秀彰主事	これはまず総務省で出している移住・定住施策の好事例集。参考になるような。全国的にやっているような好事例集とかですね。あとは県がやっている概要とかですね。あとは国のほうでこれから定住の部分はどう考えているかっていう検討会の報告書とかですね。
鈴木宏通委員長	あとそれでは、事務局と相談して……。(「抜粋してください」の声あり)皆さんに資料提供できるやつを選択したいと思いますので、お任せいただいていいですか。(「よろしくお願いします」の声あり)ではできるだけ選択して送るようにしますので、よろしくお願いします。 では、副委員長お願いします。
山岸三男副委員長	大変皆さん御苦労さまでした。今私たちの定住化促進についてということで、今回第何回目でしたっけ。回数書いてないな……。(「5回」の声あり)5回目になりますね。少しずつ定住化の促進について見えてきましたので、しっかり進めてまいりたいと思います。季節もすっかりよくなっていますのでね。 きょうは御苦労さまでした。
	閉会

会議の経過を記載して相違ないことを証するため、ここに署名する。

平成30年4月17日

総務、産業、建設常任委員会

委員長